

整形外科

最新の人工関節手術で
自由に動ける生活をエンジョイ



心
最高の
設備 技術

最前線医療を行く

その痛み、**変形性膝関節症**かも？

変形性股関節症かも？

高 齢化社会を反映して、四肢の関節痛を訴える人が増えている。その慢性疾患の疼痛の緩和・改善をリハビリなどで対応しつつ、股関節・膝関節の人工関節手術を、患者に負担の少ない低侵襲手術法で成果を挙げている西の京病院整形外科・人工関節センターの内藤浩平センター長に、その最先端手術や治療について話を伺った。

変形性膝関節症 **変形性股関節症**

加齢と共に膝や股関節の軟骨がすり減って徐々に変形していく病気で、痛みを感じ、悪化すると歩行困難、日常生活に支障を来すようになるもの。

変形性膝関節症の治療



変形性膝関節症

まずは正確な診断。患者の愁訴を問診・視診、レントゲンやMRIなどで検査の上、診断を下す。変形や痛みが比較的小さい場合は、理学療法士の指導下で、運動・ストレッチなどで筋力を強化し、薬などで疼痛の改善・予防(温存療法)。痛みが強く、日常生活も不自由な場合は、人工関節置換術を検討する。

本人が望む生活スタイルを最優先します。「もっとアクティブな生活を送りたい」「家族に負担をかけたくない」という人には、手術を勧めます。



画期的な人工関節置換術

Minimally Invasive Surgery

MIS法をいち早く導入

人工関節置換術は、すり減った関節表面を金属やセラミックなど人工のものに取



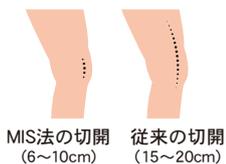
変形性膝関節症チェック表

- 膝を動かすとギンギン音が!
- 立ち上がるときに痛い!
- 膝が伸びない! 曲がらない!
- 膝が腫れる!



人工関節置換術

皮膚・筋肉・腱の切開は極小、入院期間は三分の一!!



MIS法の切開 (6~10cm)

従来の切開 (15~20cm)

り替える手術。従来は、皮膚・筋肉・腱の切開が15~20センチ必要だったが、新技術のMIS法だと6~10センチで済み、周辺筋肉や神経をほとんど傷つけないので入院期間も三分の一と短縮、患者の負担を大きく軽減できる。

人工股関節置換術(MIS-IP法)

変形性股関節症や先天性股関節脱臼、関節リウマチ、大腿骨頭壊死などの股関節障害の治療を行うのが人工股関節置換術。これは破壊された股関節の骨盤側に金属の臼蓋を入れて、大腿骨側の骨頭を金属のものに置き換える手術。膝関節のMIS法と同様、皮膚の切開や筋肉の切離がほとんどなく、術後の疼痛軽減や入院期間が短縮される。



変形性股関節症



人工股関節置換術

ナビゲーションシステムで、より正確な手術(技術+科学)

術前にCT撮影を行い、その患者に最適な人工関節の大きさやデザイン、設置位置、角度、術後の可動域などをシミュレーション、入念な術前計画をたて、そのナビゲーションシステム下で手術する。手術翌日には、歩行器で歩行訓練開始。定期的には、診断や検査を行いながら経過観察へ。

三次元動作解析で“カッコイイ歩き方”実現

術後に患者の歩き方を解析。歩行時の足裏の軌跡をモニターに出し、下肢や関節の動きを細かく分析(三次元動作解析)し、患者が満足する歩き方や美しい歩き方の動きを探っていく。

人工関節の耐久年数は30年以上に

以前は15~20年とされていた人工関節の耐久年数。近年は材質やデザインの飛躍的な進化で30年以上の耐久性が望めるという。 両方同時手術も可能!

当院では50代の手術も適応。年齢に上限はなく、私が人工関節手術を行った最高年齢は89歳です。



膝が悪い人はまず、膝のストレッチと筋力トレーニングから始めましょう。一生に一度の手術で済む時代です。痛みや違和感を覚え、たときは専門医を受信し、治療のタイミングを逃さない。それが、歳を重ねても活動範囲が広く質の高い生活につながるのでは。

整形外科部長・人工関節センター長・リハビリテーションセンター長
内藤浩平 医師 MAITO KOHEI

整形外科学会専門医、リウマチ学会専門医、リハビリテーション医学会認定臨床医、骨粗鬆学会認定医

